

対象地域：北海道

再生課題：湿原の再生

かみ

# 上サロベツ自然再生協議会

## 再生 目標

- 高層湿原：国立公園指定時（昭和49年）の植生やその広がり状況をイメージし、当時の状況を残す箇所を標準とし、これを目標とする。
- ペンケ沼：現況の維持を目指す。（これ以上埋塞が進まない状態）
- 泥炭採取跡地：湿原植生の再生・創出を図ることを目指す。
- 砂丘林湖沼群：生態系を保持するために水位低下を抑制することを旨とする。

- 事務局  
豊富町商工観光課
- 対象地域  
北海道天塩郡豊富町  
(利尻礼文サロベツ国立公園)
- 構成員数：35人
- 協議会：H17. 1. 19 設立
- 全体構想：H18. 2. 2 策定
- 実施計画：H18. 7. 13 策定（緩衝帯・沈砂地）  
H21. 7. 2 策定（環境省）  
H30. 6. 16 変更（環境省）  
H24. 5. 28 策定（林野庁）  
(R7. 3現在)



サロベツ原野は、その起源が日本海に面した沿岸部の砂丘帯と宗谷丘陵に囲まれた潟湖（古サロベツ湖）にあり、低平地における国内最大の高層湿原となっており、ミズゴケ、ツルコケモモ等が広がりコモチカナヘビも確認されています。

しかし、周辺の土地利用の変化に伴い、湿原において地下水位の低下や乾燥化、地盤沈下が発生し、これにより高層湿原が減少しササやヨシ等が侵入するなどの減少が生じています。

このため、湿原の消失と劣化、農業との両立など、課題解決に向けた自然再生の取組を進めています。



ツルコケモモ



コモチカナヘビ

## 自然再生の手法

- 地下水位の低下抑制
- 泥炭採取地の復元
- 農地と湿原の緩衝帯等の整備



水抜き水路の埋め戻し



淡水が回復した落合沼